

2006 年 NPAFC 年次会議：科学調査統計小委員会(CSRS)の概要

浦和 茂彦* (さけますセンター さけます研究部)

2006 年 10 月 23 日より 27 日までバンクーバー市内にあるサイモン・フレザー大学の会議場において第 14 回 NPAFC 年次会議が開催され、日本からは今村 全国底引網漁業連合会会長と長畠 水産庁参事官を代表とする 8 名が参加した。本会議に加え、科学調査統計小委員会(CSRS)、取締小委員会(ENFO)と財政運営小委員会(F&A)が開かれた。CSRS には、カナダ 10 名、日本 5 名、韓国 3 名、ロシア 14 名、米国 21 名、オブサーバー 5 名が参加した。ここではその概要を紹介する。

資源動向と放流数

各国が提出したさけます統計データによると、2005 年における太平洋さけます類の漁獲量は約 97 万トンで 1995 年に次いで史上 2 番目を記録した。このうちカラフトマスは 49 万トンと全漁獲量の約半数を占め、サケは 31 万トンで前年(35 万トン)より減少した。一方、2006 年は日本や北米の一部の地域などでカラフトマス資源量が予

想よりも減少しており、沖合域や各地域における情報の交換が行われた。2005 年の北太平洋におけるさけます類の総放流数は 48 億 5 千万尾で前年(49 億 9 千万尾)よりもやや減少した。このうち日本からの放流数は 20 億尾である。

科学ドキュメントの検討

科学ドキュメント合計 58 編が各国より提出され、主要な論文についてプレゼンテーションと質疑応答が行われた。日本からは科学ドキュメント 19 編を提出し、そのうち、中部北太平洋におけるさけます類資源評価に関する長期モニタリング結果(Doc. 960)、越冬期におけるさけます類の分布、遺伝的系群識別と栄養状況に関する研究成果(Doc. 957, 962, 963)、耳石解析による初期海洋生活期におけるサケ幼魚の成長推定(Doc. 964)、サケ筋肉に寄生する線虫 *Anisakis simplex* の近年の異常な増加(Doc. 993)の 6 編について紹介した。他国では行われていない調査研究の成果が多く含

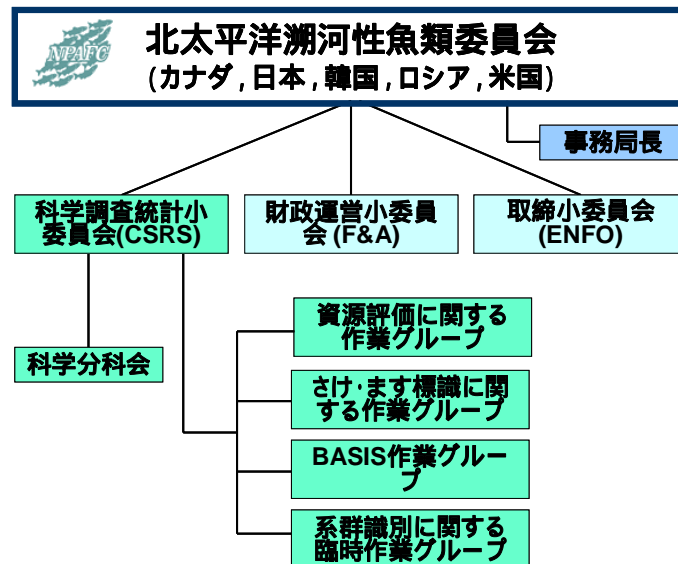


図 1. 北太平洋溯河性魚類委員会(NPAFC)の組織構成。NPAFC (<http://www.npafc.org/>)は1993年に発効した「北太平洋における溯河性魚類の系群の保存のための条約」第8条により設立された。科学調査統計(CSRS)、取締(ENFO)と財政運営(F&A)の各小委員会があり、CSRSでは科学分科会と資源評価、標識、ベーリング海・アリューシャンさけます国際共同調査(BASIS)、系群識別の各作業グループが現在活動している。

* 2006 年 12 月 1 日から NPAFC 事務局次長(カナダ)へ在籍派遣。



図2. Simon Fraser Univ. Morris J. Works Centre for DialogueのAsia Pacific Hallで開催されたNPAFC全体会議。

まれており、参加国の中で最も活発な討論が行われた。各国から提出された科学ドキュメントやNPAFC出版物は、NPAFCのホームページ(<http://www.npafc.org/>)で閲覧やダウンロードできる。

作業部会

2002-2006年に行われたベーリング海・アリュシャンさけます国際共同調査(BASIS)の継続に関する論議が行われた。BASISはすべての加盟国が参加する初めての国際共同調査である。ベーリング海と周辺海域におけるさけます類の資源状態、系群別分布、摂餌生態などが各国の調査船を使って調査され、同海域がさけます類の成長にとって重要な生息場所になっていることが明らかになった。そのため、ベーリング海におけるさけます類をめぐる生態系と気候変動の関係解明などを柱としたBASIS-IIの立ち上げを米国、カナダやロシアが主張したが、結論は得られず、2007年春に開催される調査計画調整会議(RPCM)で改めて論

議することになった。これと関連して共同調査のための外部資金の導入に関する検討が行われた。

耳石標識放流のデータベースと標識パターンの国際管理に関する新システムが開発され、標識作業グループのホームページ(<http://npafc.taglab.org/>)上からデータの直接入力(担当者のみ)と検索(利用制限なし)が可能となった。

今後のシンポジウムとワークショップ

今後5年間に開催するシンポジウムやワークショップの予定は以下の通りである。

- ・ ベーリング海とその周辺に棲息するさけます類に関する国際シンポジウム(2008年秋,米国)
- ・ さけます類の研究と回帰予測に関する方法標準化に関する国際ワークショップ(2009年春,場所未定)
- ・ さけます類の死亡要因に関するNASCO等との共同国際シンポジウム(2010年春,ヨーロッパ)